

令和5年度 高等部研究

令和5年度 高等部研究

「わかる喜び、学ぶ楽しさの実現を
目指した授業改善」

- 「総合的な探究の時間」及び「自立活動」を対象授業とし、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくり、授業改善を行う。
- 昨年度の個別授業の実践で積み上げてきた研究を集団の授業づくりにいかしていく。



- 「総合的な探究の時間」について理解を深める。
- 学年間の系統性、学習内容を整理する。
- わかる喜び、学ぶ楽しさの実現を目指した授業実践、工夫、PDCAサイクルの授業改善を行う。
- 指導と評価の一体化を意識した実践を行う。

研究グループ

- 高等部Ⅰコース34名
基礎的な学習を積み上げてきている生徒
教科学習を中心に集団の中で学習をしてきた生徒など
- 高等部Ⅱコース1名
自立活動主体、一部の教科で小学部1段階を目標に学習。集団性の確保、本生徒の実態からⅠコースの授業にも参加。

- 1学年+Aグループ
- 2学年グループ
- 3学年グループ

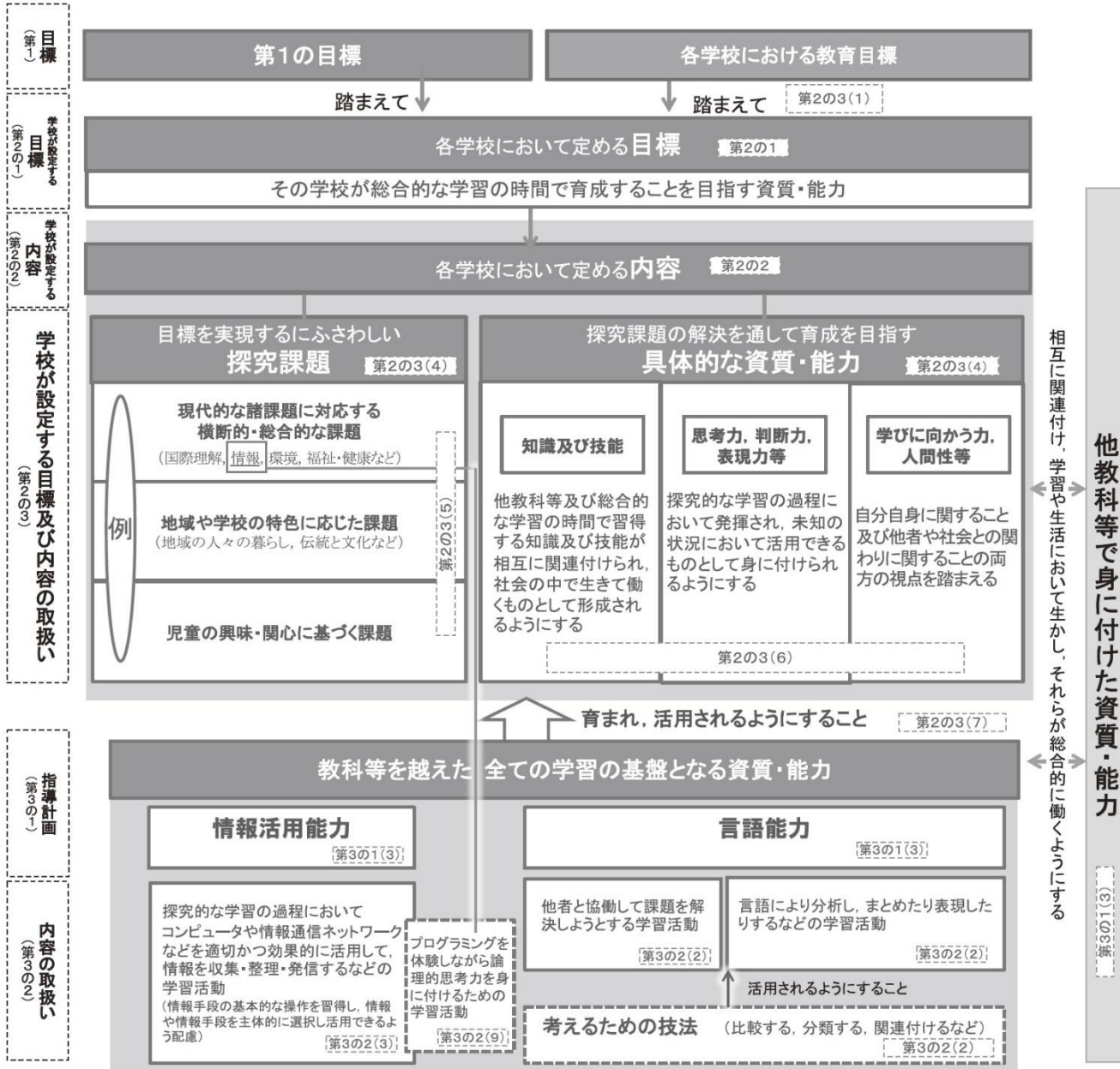
研究経過



- 基礎研究
「総合的な探究の時間」
「主体的・対話的で深い学び」について
- グループ研究
- 事例発表

- 「総合的な探究の時間」
についての基礎研究

第5章 総合的な学習の時間の構造イメージ (小学校)



(第1) 目標

(第2の1) 目標

(第2の2) 内容

(第2の3) 学校が設定する目標及び内容の取扱い

(第3の1) 指導計画

(第3の2) 内容の取扱い

学校が設定する

学校が設定する

学校が設定する目標及び内容の取扱い

指導計画

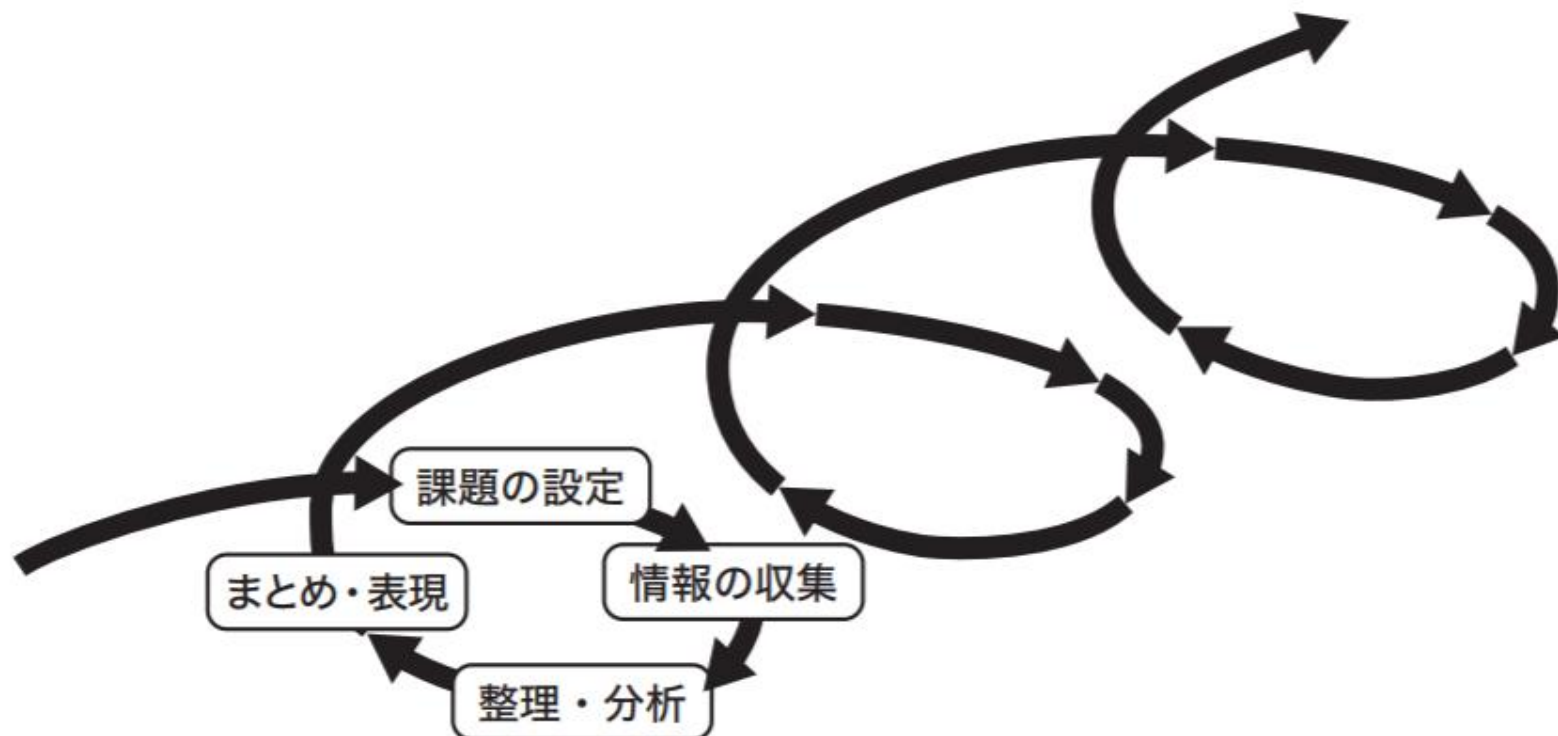
内容の取扱い

相互に関連付け, 学習や生活において生かし, それらが総合的に働くようにする

他教科等で身に付けた資質・能力

[第3の1(3)] [第3の2(2)] [第3の2(9)]

探究における生徒の学習の姿



■ 日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する。

■ 探究の過程を経由する。

- ① 課題の設定
- ② 情報の収集
- ③ 整理・分析
- ④ まとめ・表現

■ 自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

「知識・技能をつなぐ（関連付ける）」



「活用・発揮」



「探求のプロセス」

障害のある生徒への配慮

（第4章・第1節

1 指導計画作成上の配慮事項（6））

生徒の十分な学びを確保し、一人一人の生徒の障害の状態や発達の段階に応じた指導や支援を一層充実させていく必要がある。



- 着目する点や調べる内容、まとめる手順や調べ方について具体的に提示する。
- 現在の関心事を核にして、関連する具体的な内容を示していく。



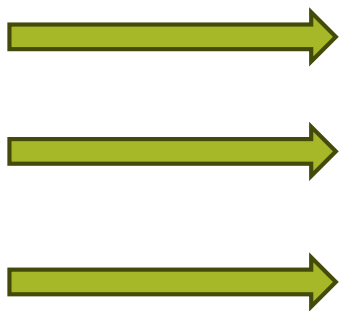


- 各グループに分かれて
「国語数学ラーニングマップ」実態把握
担当する国語数学の生徒から一人選んで各項目を✓する。
中学部2段階を超える生徒の場合、学習指導要領高等部から該当する項目の段階を確認する。

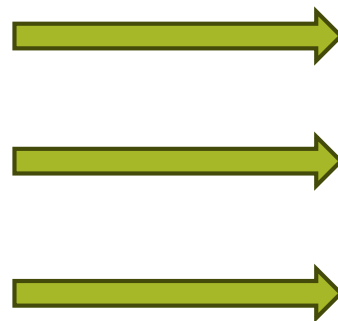
「主体的・対話的で深い学び」

インプット

アウトプット



正しい知識を
わかりやすく
スマートに



「活用・発揮」
(話す、書くなど)

知識・技能をつなぐ

「主体的・対話的で深い学び」 R4国語・数学（ことばかず）

R4 高等部研究 「わかる授業」「学ぶ楽しさ」の実現を目指した授業改善

「主体的・対話的で深い学び」の具体的な場面（具体的なやりとりと成果と課題：画像含む）

・作業で行った大掃除についてはどんなことをしたのか会話をし、「たいへんでした」という気持ちが生徒から聞き取れた。ネガティブな感情は思い出したり、進んで書き表したりしにくいと思っていたが、汗をかいているイラストとともに文章化することができた。

・文字の構成板を使い筆順を確認することで、自分で考えながら文字を書くことができるようになってきた。
・集中できないときには、文字の構成板だけでなく、教師が1画目を書くことで、それを手掛かりに2画目を書くことができた。

・自分が書いた文字を「ねね」と読んだ後、近くにいた寧々さんを連れてきて「この人は？」と質問すると、「ねね」と答えることができた。寧々さんが喜び、近くにいた教師が「寧々さんだね」と伝えると、自分が書いた文字と寧々さんを交互に指差して確認する姿が見られた。実感が伴ったのか、教師が言わなくても「ねね」と言いながら確認する姿みられた。「ねね」と言うたびに、寧々さんが声を出して喜んだので、本人も嬉しそうに、自分が書いた文字を指差したり、手をたたいて喜んだりする姿が見られた。

・ブロックを1回操作するごとに、数字で同じ操作を行った。「一の位から引けないからどうする？」と質問すると「（十の位から）1本借りてくる」と、繰り下がりの意味を捉えた回答ができた。

・机上が物でいっぱいになってしまい、思考の妨げになった。
ブロックは必要数以外は全て片づけるようにしていく。

・合わせた数を求めるための理解を深めるため、具体物を操作して「合わせる」ことを体験するようにした。
自分で具体物を操作する中から、「合わせて」という言葉と「合わせる」という操作の表現とを結びつけられるようになった。

・2つの数を合わせて箱に入れ、蓋をしたときに「合わせていくつ」と教師が聞くと、即答ではなく蓋をして見えなくなった具体物の数量を頭でイメージ（えーと、5と2だから……7などのように）して解答するようになった。

・実際の操作を式で表すことにより、2つの数を合わせた集合数の式が加法であると共に、「+」や「=」の記号を用いることを知り、枠の中にことができた。（写真③）

・写真①のプリントから、写真②の○や□などの枠や「=」などの記号がないプリントへ移行した。問題文に本人の名前や先生、友達、ぎょうざや

教材の工夫、手だての工夫

- 実感を伴う
- 身近でイメージをもちやすい
- 具体物の操作
- 絵や写真の提示
- 具体物の操作＋言葉の結び付け
- 少し頑張ればできる課題
- 自分で選択
- 興味のあるもの
- スモールステップ
- 繰り返し
- タブレットの活用

教師の支援

- きっかけ作り
- 教師の板書
- 教師と一緒に
- 教師の発問を介す
- 「なぜ」を繰り返す
- 学習の流れ
- 様々な視点で考えさせる

やりとり

- 友達の様子をみて、意欲的
- 友達と対話をしながら意見を聞き
学びあいをする場面の設定
- 友達の説明を聞く
- 友達と競い合う
- 友達の言葉を聞く
- 相手に伝えようとする

グループ研



- 各グループに分かれて「総合的な探究の時間」の授業計画（単元、目標、評価規準等）について共通確認。
- 授業改善シートによる授業改善

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1学年	北麓地域（富士五湖）				北麓地域（富士山）				校外学習（歴史、文化、産業、電車の乗り方）			
	知識の学習（インプット）、調べ方の学習、調べ学習 知識のインプット、体験的学習、調べ学習											
2学年	北麓地域（富士山、自然、動物、食べ物、伝統）											
（1学年時）	体験（作る、着る、動く）タブレットの使い方、タブレットを使っの調べ学習											
3学年	理科				社会				学年社会			
（1学年時）	北麓地域（地域、富士山、機織り）											
	知識、プリント学習、お弁当総選挙											
2学年	北麓地域（地域、産業）			学校間交流、宿泊学習事前			宿泊学習、近隣県			修学旅行		
（2学年時）	調べ学習（資料、タブレット）						調べ学習、まとめ、発表（タブレット等の活用）					
3学年	身の回りの事象、富士北麓地域、山梨県			身の回りの事象、伝統工芸、近隣県			近隣県、修学旅行					
（2学年時）	調べ方の学習、まとめ、発表						調べ学習（パンフレット、タブレット）					
3学年	修学旅行、近隣県（体験、見学先）				近隣県				卒業に向けて			
（3学年時）	調べ学習（資料、タブレット）、まとめ、発表						修学旅行先を再探究、調べ学習、体験学習、まとめ、発表					

- 高3 「総合的な探究の時間」
についての授業研究

～主体的・対話的で深い学び
の実践に向けて～

3学年

- 修学旅行後にさらにやってみたいこと、調べたいことについて学習。
- 4つのグループに分かれて、実験や体験、作成を交えて学習を深めた。
- 調べたことなどをまとめて発表。

題材設定

- 修学旅行（神奈川県 naturally、特産品など）

旅行前

調べ学習

タブレット
旅行本
パンフレット

まとめ

模造紙

発表

テーマ毎

旅行後

- 修学旅行（神奈川県 naturally、特産品など）

調べ学習

タブレット
書籍
実験
アンケート
インタビュー

まとめ
模造紙
製作

発表
テーマ毎

主体的・対話的で 深い学び



- 修学旅行で体験したことから、さらに深く学習したい。また〇〇したい。
 - ▣ 実感を伴いイメージしやすい。
- 自分で選ぶ。▣ 興味がもちやすい。
- 友達と協力する。▣ 対話する。
- 教師がある程度ヒントを出す。
 - ▣ 気づきを促す、ポイントを絞る。
- 生徒が発した言葉を文字化。
 - ▣ アウトプット

1 学年

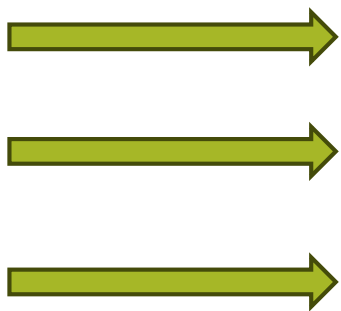
- 富士五湖や富士山についての学習
- 一斉授業による知識のインプット
- 実験をしたり、実物を見て比べたりしたことをまとめて発表

2 学年

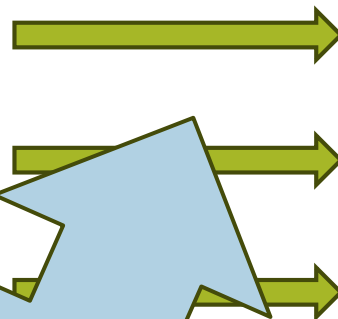
- 富士北麓地域についての学習
- 調べ方の学習
- オリジナルブックを作成、利用した調べ学習
- 宿泊学習にむけた学習

インプット

アウトプット



正しい知識を
わかりやすく
スマートに





- ふじざくら高等部の
「総合的な探究の時間」

1年次：富士山、富士北麓地域

2年次：富士北麓地域、宿泊学習、
近隣県、修学旅行先地域

3年次：修学旅行先地域、卒業に向けて

中心とし、各学年で設定していく。

• ふじざくら高等部の
「総合的な探究の時間」



- 生徒の実態に合わせたアウトプット（書く、話す、体験する、表現する等）の方法で行っていく。
- 調べ方については様々な方法があり、教材の工夫が必要。
- 課題設定は、生徒の身近な物や体験したことを基に考えていく。
- 教師の支援や介入は必要に応じて。

成果

- 授業改善シートを活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点を持ち、授業内容の設定や教材の工夫を行い、改善につなげることができた。
- 個別授業と、集団授業での実践と相互に関連しながら生徒一人一人のわかる授業につなげることができた。

- 学年教員全員で生徒の実態を把握し、目標設定、評価規準を見直しながら共通の視点を持ち、生徒へのかかわりへとつなげることができた。

- 事例発表を行うことで、他学年の実践について共通確認するとともに、助言などを受け授業実践を深めることができた。また、学部としての系統性の整理を行うことができた。

課題



- 基礎研究を続けるとともに、PDCAサイクルで検証していきながら、生徒たちの実態に合った探究活動を設定していく必要がある。
- 学年での学習となるため、学年集団としての実態を把握していくことや、個々で行った実態把握を集団授業に生かしていくことができる。とよい。

まとめ



- ふじざくら高等部としての総合的な探究の時間について検討する良い機会となった。
- 一人一人のわかるを目指し、実践を重ね「主体的・対話的で深い学び」につなげる。